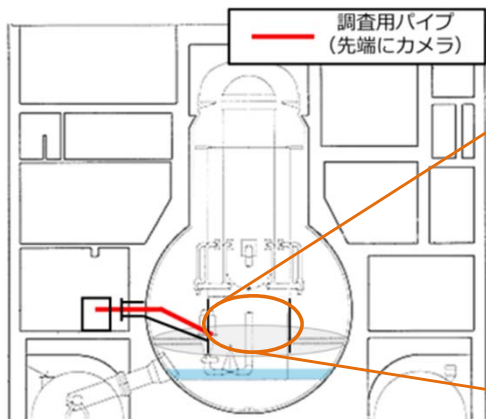


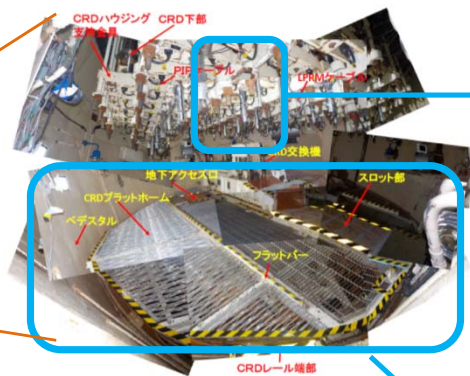
福島第一原発2号機における格納容器内部調査

- ◇ 格納容器の内部状況を把握するため、1/26から2/16にかけて遠隔操作によりカメラやロボットを原子炉圧力容器の近くまで投入。
- ◇ 原子炉圧力容器の下にある**足場の脱落や堆積物の状況等を初めて直接確認し、多くの画像を取得。放射線量、温度データも実測でき、廃炉に向けて着実に前進。**
- ◇ 一連の調査結果を今後分析し、本年中の燃料デブリ取り出し方針の決定に向けた検討を進めていく。
(1号機及び3号機においても、内部調査を順次実施する予定。)

カメラ調査(1/26, 1/30)

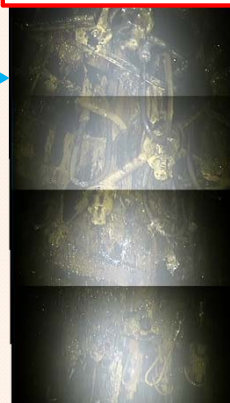


※事故前の状態

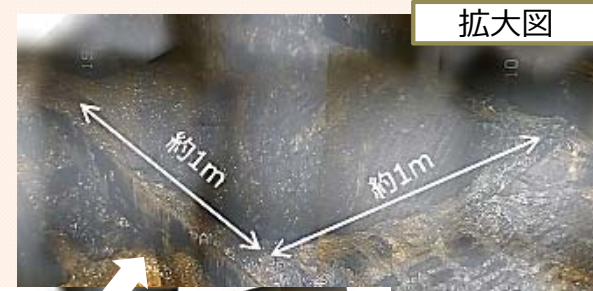


圧力容器の下の状態を初めて確認

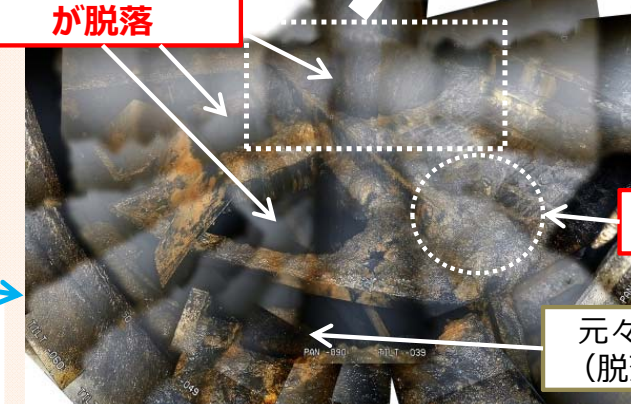
圧力容器下部の設備機器 (手前側) に大規模な損傷なし



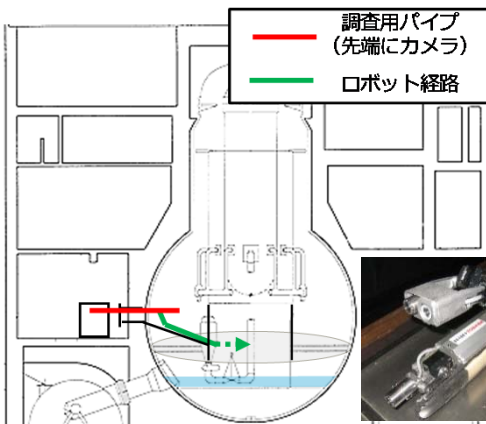
拡大図



格子状の足場
が脱落

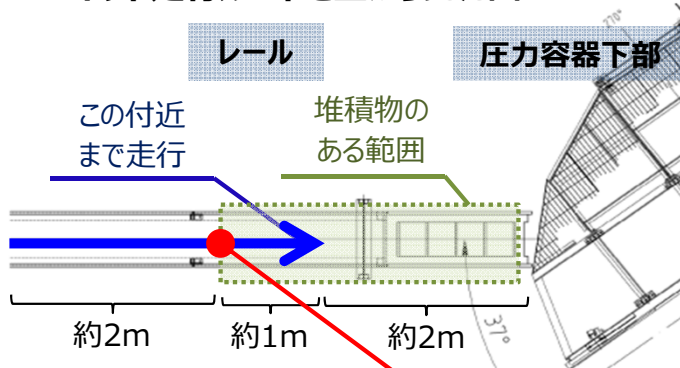


ロボット調査(2/16)



調査用ロボット

※ロボット走行ルートを上から見た図



放射線量の実測・温度の計測に成功

放射線量：毎時約210シーベルト

温度：約16.5度

※常時監視している温度計で18.7度